

平成２８年度 発達障害の可能性のある児童生徒等に対する早期・継続支援事業
(発達障害早期支援研究事業)
成果報告書（概要版）

実施機関名（大田区教育委員会）

1. テーマ

「発達障害の可能性のある児童に対する早期支援及び課題解決を目指すR P D C Aサイクルの確立」～短期目標を明確にした指導・支援プログラムの開発を通して～

2. 問題意識・提案背景

本区では、大田区特別支援教室モデル事業を推進し、情緒障害等通級指導学級における拠点校方式から特別支援教室（国では通級指導教室に含まれる。）における巡回指導方式への転換についての課題解決を図っている。

平成２６年度には、区内の経験豊富な情緒障害等通級指導学級担任を招集した委員会により、特別支援教室における発達障害の児童の指導等に資する指導事例集等を作成した。平成２７年度には、大田区特別支援教室モデル事業の研究成果を検証し、平成２８年度からの特別支援教室区内小学校全校実施に向けて、指導内容・方法の研究・開発を進めることとした。

さらに、専門家による指導助言を踏まえながら、複数のアセスメントを活用し、発達障害の可能性のある児童の不応答等をその発達段階において可能な限り早期に把握し、指導支援するとともに、通常の学級における発達障害がある児童への配慮を踏まえた授業改善、効果的な施設・整備の在り方についての研究を進めることとした。

3. 目的・目標

大田区児童実態把握票、MIM-PM、WISC-IV等複数の段階的なアセスメントを活用し、発達障害の可能性のある児童の不応答等を早期に把握して個別指導計画を作成し、短期目標を明確にした指導・支援を実施する。評価については、上記アセスメント等を活用し、指導・支援方法の成果及び改善点について、校内委員会で検証していく。

また、発達障害支援アドバイザーを配置し、巡回指導教員等の指導方法の改善や指導の補助、専門的な観点からのアセスメント等に関する指導助言を行い、通常の学級における児童一人ひとりが抱える困難さを把握するとともに、経験の浅い巡回指導教員や通常の学級担任等による指導・支援の向上を図ることで効果的な指導・支援体制を構築する。

更に、教員の意識改革と専門性の向上を図るために、指導内容・指導方法等検討部会を設置し、指導事例集の活用について検証したり、指導内容・方法に関する教員専門研修を実施して巡回指導教員や通常の学級の教員の専門性の向上について検証したりし、発達障害の可能性のある児童への配慮を踏まえた指導・支援の質を高めていく。

4. 主な成果

- ・ 大田区特別支援教室児童実態把握票の活用、多層指導モデルMIMを活用したMIM-P

Mによるアセスメントの実施、臨床発達心理士等発達障害支援アドバイザーの巡回による指導助言により、定性的・定量的な児童の実態把握が可能であることが分かった。

- ・ 指定校において、授業にユニバーサルデザインの視点を取り入れ、焦点化・視覚化・共有化の観点による指導方法に効果があることが分かり、その成果を区内全小学校に研究発表会をとおして波及させた。
- ・ 発達障害児童への個別指導が通常の学級における指導にも効果があることが分かり、個別指導の具体を「発達障害の可能性のある児童に対する指導事例集」として区内全小中学校に波及させた。
- ・ 年2回の運営協議会と年3回の指導内容指導方法検討部会及び教員専門性向上研修検討部会で有識者や学校関係者等と協議し、課題と方略を共有しながら円滑に事業を進めた。

5. 指定校における取組概要

① 学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒の明確化

＜校内委員会の充実による発達障害児童への理解（通常の学級担任等）＞

- ・ 大田区児童実態把握票やMIM-PM等の結果から、児童のつまずきを早期に発見し、支援方法について校内委員会で検討、実施した。このことにより、一人ひとりのニーズに応じた支援を充実させることができた。
- ・ 校内でのこれまでの取組（実態把握や具体的支援）に加えて、巡回指導教員に児童の実態把握の方法や支援の方法についても相談ができ、通室しない児童の支援にも活用できた。

＜校内委員会の充実による発達障害児童への理解（児童・保護者等）＞

- ・ 特別支援教育について理解を深める授業や説明会を巡回指導教員が各学年や保護者向けに行い、通常の学級の児童が通室する児童に対する理解を深め、特別支援教室についても関心を高めることができた。
- ・ 発達障害児童についての保護者の理解が深まり、通級の希望者が増えた。

② 学習面（「聞く」「話す」「読む」「書く」「計算する」「推論する」）で困難を示す児童生徒に対する指導方法の改善・工夫

- ・ ユニバーサルデザインの視点を取り入れた「どの子にも、わかる・できる喜びが感じられる」よう授業づくりを実践した。例えば、焦点化・視覚化・共有化のユニバーサルデザインの3つの視点を具体化するとともに、タイプⅠ（多動傾向のある児童・落ち着きのない児童）・タイプⅡ（こだわりの強い児童・マイペースな児童）・タイプⅢ（理解に時間がかかる児童）など、タイプごとに授業における個に応じた手だてを明確化した指導方法を工夫した。
- ・ 「ユニバーサルデザインの視点」と「個に応じた手だて」を取り入れた授業を行うことにより、授業に意欲的に参加する児童が増加した。学習状況の実態調査を行い、「授業が面白い。」「次の授業が楽しみだ。」と感じたことがあるという項目に対し、「よくある」と答えた児童が23%から50%に増加した。
- ・ 特別支援教室指導事例集や児童実態把握票を活用することにより、児童の実態に沿って一人ひとりに合った指導を行うことができた。

③ 行動面（「不注意」「多動性」「衝動性」）で困難を示す児童生徒に対する指導方法の改善・工夫

- ・ 発達障害児が、通級による指導をとおして、コミュニケーション能力を身に付けたり、

自分らしさを発揮し、自尊感情を高める貴重な時間になっている。

- ・ 巡回指導教員が、在籍する学級担任と連携し、対象となる児童に合った支援を通常の学級においても行うことで、児童が落ち着いて学習に取り組めた。
- ・ 小集団指導で学んだ対人関係の持ち方を通常の学級での生活や家庭での生活に活かすことができた。

④ 発達障害支援アドバイザー

発達障害支援アドバイザーは、指定された小学校において、巡回指導教員による巡回指導を活用した効果的な指導体制や専門性の向上を図るとともに、教員の意識改革を図り、学級担任等の通常の学級における発達障害の可能性のある児童等への配慮を踏まえた指導の質を高めるための支援、心理検査等客観的な指標を基にした児童の見取りに関する指導助言を行った。

支援対象は、巡回指導教員の他、通常の学級担任、管理職、特別支援教育コーディネーター、特別支援教室専門員等多岐に渡り、支援回数は12月末日で約430回の支援を行った。

6. 今後の課題と対応

＜複数のアセスメントを活用した児童の実態把握＞

- ・ 学校生活支援シートや個別指導計画との関連付けなど、入級時や継続・終了判定以外における大田区児童実態把握票の更なる活用
- ・ タブレットPC版MIMトレーニング等を活用した巡回指導教員による効果的な指導内容・指導方法の工夫の検証

＜学習面又は行動面で困難を示す児童に対する指導内容・指導方法＞

- ・ 発達障害支援アドバイザーの活用による在籍する学級における個別指導や小集団指導の成果検証と通常の学級担任との連携の在り方
- ・ 専門性を高めるために必要な研修プログラムの確立等、初任者や経験年数の浅い教員への更なる効果的なOJTの在り方

＜効果的な指導を行うための指導事例集の活用及び指導方法の開発＞

- ・ 特別支援教室及び、通常の学級における「発達障害の可能性のある児童に対する指導事例集」の活用とその効果検証
- ・ 複数の段階的なアセスメントを活用した研修、報告書等成果物の配布等による研究成果の還元

7. 指定校について

指定校名：大田区立入新井第二小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	94	3	93	3	101	3	89	3	102	3	98	3
特別支援学級												
通級による指導 (対象者数)	1		2		8		2		4		3	
	校長	副校長	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育 支援員	スクールカウンセラー		その他	計
教職員数	1	1	28	1	7	1	2	2	2		4	46

指定校名：大田区立大森第四小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	91	3	90	3	96	3	101	3	96	3	107	3
特別支援学級												
通級による指導 (対象者数)	1		1		5		3		5		2	
	校長	副校長	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育 支援員	スクールカウンセラー		その他	計
教職員数	1	1	25	1	3	1	1	2	2		1	38

指定校名：大田区立中富小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	35	1	42	2	30	1	31	1	37	1	25	1
特別支援学級												
通級による指導 (対象者数)			4		3		3		2			
	校長	副校長	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育 支援員	スクールカウンセラー		その他	計
教職員数	1	1	12	1	3	1	1	2	1			23

指定校名：大田区立大森第一小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	78	3	98	3	82	3	67	2	82	3	85	3
特別支援学級												
通級による指導 (対象者数)			3		4		1		2		2	
	校長	副校長	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育 支援員	スクールカウンセラー		その他	計
教職員数	1	1	21	1	3	1	2	2	1		1	34

指定校名：大田区立田園調布小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	90	3	123	4	90	3	95	3	96	3	137	4
特別支援学級												
通級による指導 (対象者数)			1									
	校長	副校長	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育 支援員	スクールカウンセラー		その他	計
教職員数	1	1	26	1	5	1	1		2			

指定校名：大田区立調布大塚小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	52	2	50	2	36	1	44	2	41	2	45	2
特別支援学級												
通級による指導 (対象者数)												
	校長	副校長	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育 支援員	スクールカウンセラー		その他	計
教職員数	1	1	18	1	2	1	1	4	1			

指定校名：大田区立雪谷小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	124	4	92	3	119	3	114	3	101	3	104	3
特別支援学級												
通級による指導 (対象者数)					1							
	校長	副校長	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育 支援員	スクールカウンセラー		その他	計
教職員数	1	1	30	1	4	1	1	1	1		6	41

指定校名：大田区立矢口小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	77	3	85	3	106	3	106	3	82	3	96	3
特別支援学級												
通級による指導 (対象者数)	2		3		5		3		1		3	
	校長	副校長	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育 支援員	スクールカウンセラー		その他	計
教職員数	1	1	22	1	5	1	1	1	1			

指定校名：大田区立矢口西小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	111	4	101	3	95	3	123	4	128	4	154	4
特別支援学級												
通級による指導 (対象者数)							1				1	
	校長	副校長	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育 支援員	スクールカウンセラー		その他	計
教職員数	1	1	28	1	4	1	1	2	2		1	42

指定校名：大田区立多摩川小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	89	3	112	4	89	3	80	3	82	3	95	3
特別支援学級												
通級による指導 (対象者数)											3	
	校長	副校長	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育 支援員	スクールカウンセラー		その他	計
教職員数	1	1	27	1	5	1	2		1		3	

8. 問い合わせ先

組織名：大田区教育委員会

- (1) 担当部署 大田区教育委員会事務局教育総務部指導課
- (2) 所在地 東京都大田区蒲田 5-37-1 ニッセイアロマスクエア 5階
- (3) 電話番号 03(5744)1435
- (4) FAX 番号 03(5744)1665
- (5) メールアドレス sido@city.ota.tokyo.jp